令和6年度 農業ウォッチングラリー 報告

農作物を収穫しながら、市内の圃場を歩いて巡るこの事業は、多摩市の農業を市民に対し広く周知し、市民と農業者との交流を図るために、多摩市農業委員会の主催で実施しています。

令和6年10月27日に、一ノ宮・東寺方地域で実施した今回も、お子様連れ、ご夫婦、農業を学ぶ大学生、単身者など、老若男女38名ものたくさんの方々にご参加いただきました。

●集合場所は「いきいき市」！

当日は薄曇りの空のもと、参加者たちは続々と集合場所である「いきいき市」へ集まってきました。

▲みんな元気に集合場所へ

新鮮な地場野菜が購入できる「いきいき市」は、令和4年に現在の場所(一ノ宮2-46)にリニューアルオープンしました。生産者である農家自らが運営し、消費者へ直接販売する、都内で唯一、全国的にも珍しい農業者直営の共同直売所です。

開会式は、多摩市農業委員会萩原会長、多摩市陰山副市長の挨拶から始まり、それぞれ「ウォッチングラリーを通じて、多摩市の農業に理解を深め、応援して欲しい」というお話がありました。参加者の心に響くといいな、と思いながら、注意事項を確認後、いざ、2班に分かれて出発です。

●小野神社へ立ち寄りました

秋めく多摩川沿いを歩くこと15分、立ち寄り場所の小野神社に到着です。一ノ宮の地名の由来は、この神社が武蔵国の大

▲神社総代からお話を伺いました

國魂神社(武蔵総社六所宮)の一ノ宮であったから、とされているそうです。

神社総代を務められている、多摩市農業委員会前会長の小暮さんからは、歴史やお祭りのことなど、地元ならではの貴重なお話を聞くことが出来、また特別に、普段はお目にかかれない、神社に安置されている東京都指定文化財を拝観させていただきました。これはラッキー！

●長ネギを収穫！

太田さんは、市内に4軒ある米農家のうち、最も大きな農家さんです。昨夏のお米不足の際、太田さんの作った美味しいお米は、グリーンショップで購入することが出来ました。地域を支える力強い存在です。

定植から3回以上も土寄せし、丁寧に育てられた夏ネギは、子どもと同じくらいの背丈があり、それはそれは立派な長ネギの収穫に、参加者の笑みが弾けます。

●掘ればザクザク 里芋掘り！

▲掘れば里芋が次々と…

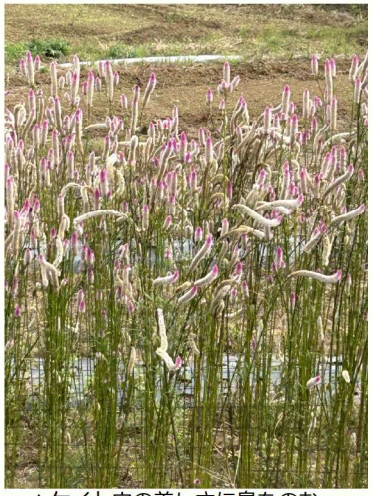
長ネギがはみ出したリュックサックを背負って歩みを進め、京王線の踏切を渡ると、住宅地に囲まれた小暮さんの圃場があります。参加者は、圃場に着くと軍手をはめて準備万端！

「茎を回すように収穫してください」とアドバイスがあり、ひとたび土の中に手を入れれば、沢山の大きな里芋が現れ、参加者の歓喜の声で、圃場は花が咲いたように賑やかになりました。

この辺りでは、里芋は、子芋のみを食べ、親芋は種芋として利用されることが多いようですが、そのサクサクとした触感を好み、親芋も食す地域もあるということです。

●たわわな小松菜

参加者は、長ネギに里芋と、ずっしりと大きくなった収穫袋を手に、心地よい重みを感じつつ大栗川を渡り、花卉農家でもある



▲ケイトウの美しさに息をのむ…

▲ネギを背負って里芋掘り！

高橋さんの圃場へ向かいます。

途中、風に揺れる美しいケイトウに目を奪われ、うっとりするような贅沢な時間が参加者たちを包み込みます。

圃場に到着すると、すくすくと育った小松菜の姿にほれぼれ…自然と期待が膨らみます。害虫が多い時期でもあり、高橋さんには、防虫ネットを掛けて対策していただきました。

青々と大切に育てられた小松菜を、参加者は、一束また一束と慎重に引き抜いていき、みるみるうちに収穫袋は膨らんでいきました。

●交流会の会場へ

3か所の圃場での収穫を終え、両手も背中もいっぱいになった荷物を持ち、交流会会場である大栗川・かるがも館を目指します。会場に到着するやいなや、なんとも良い味噌の香りが参加者の鼻孔をくすぐります。地元農家の小暮さん、柚木さん、高橋さんが、市内産の野菜を使い調理していただいた暖かい豚汁は、たくさん歩いて疲れた体を温め、空腹を満たしてくれました。お食事をしながら、参加者と農業委員は、多摩市の農業について熱心に意見交換を行いました。

●心温まる市民との会話

交流会では、市民の方々から、素朴な内容からマニアックな質問まで、様々な会話をすることができ、楽しいひとときを過ごしました。

▲市民と農業委員との貴重な意見交換のひととき

例えば、「住宅地を抜けると、畑が突然現れることに驚きました」とか、「市内で色々な種類の野菜が育てられていることを初めて知りました」など、とても新鮮な感想をいただき、「少量多品目栽培は、都市農業である多摩市の農業形態の特徴のひとつです」とPRさせていただきました。

また、「地場野菜は、どこで購入できますか？」との問いかけには、「グリーンショップやスーパーのほか、農家の軒先販売でも購入できます」とご案内させていただきました。

▲立派な小松菜に心が躍ります！

そのほか、「育てる野菜はどうやって決めていますか？」と聞かれ、「まくわうりやのらぼう菜など、地域のお野菜も大切にしていて、お客様のリクエスト(ブロッコリーではなく、スティックセニョールにしてみるなど)に応えたり、販売や品出し(出荷)に出来るだけ手間がかからないものを選定したりなど、試行錯誤しながら育ててます」と伝え、「圃場が住宅地の中にある為、消毒する必要がない作物や、朝採り即日販売をセールストークにしている作物などは、販売するギリギリまで熟し育てることが出来て、結果、美味しい品目を提供することができています」と率直にお答えしました。

このように、市民の皆様と収穫の喜びを共有することで、多摩市の農業を知っていただき、改めて都市農業を考えるきっかけづくりをすることができました。

多摩市の農地面積は、平成4年の83.3haから令和4年には36.1haへと大きく減少しており、農家戸数は半減しています。

多摩市の農業と農地を守るために、市民の皆様と交流を深めることは、農業委員として大変有意義な活動であると考えています。

これからもたくさんの方々に「農業ウォッチングラリー」へご参加いただき、その結果として、多摩市の農業に対して興味を持っていただいたり、理解を深めていただいたりすれば、それは農業委員としてまさに「感無量の極み」です。

(農業委員 熊野美幸)